

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その38

文：佐藤 泰

歴史と信仰に彩られた群岡地区の植物たち

下野尻と上野尻の境、蟹沢の上流で国道49号線の跨道橋をくぐった先に「石割り桜（石抱き桜）」があります。オオヤマザクラという種類で、^{あか}紅く可憐な花が咲きます。昔から近くの須刈岳に住み、村の娘たちをさらったといわれる天狗のグヒン様が悪戯をし、岩に穴をあけて桜の幹を差し込んだり、根に岩を抱かせたりしたという伝説が残されています。

信仰の郷、群岡には室町時代に「六十六部聖」と呼ばれた人々が全国を巡り、特に信仰の熱いこの地に「経塚（五職神経塚）」を奉納しています。また近くの「蒲生氏郷の肖像画」で有名な古刹、西光寺には美しいハスの花が咲き競っています。ハスの花は仏教では極楽浄土に咲く花とされ、慈悲の象徴とされています。花が開くとき「ポン！」という大きな音がするとされていますが、本当なのでしょうか？

歴史の証人としては、1600年頃より越後街道となった下野尻の車峠の登り口に巨木「稲荷杉」が存在し、古くから街道を往き来する人々を見守ってきました。残念ながら、昭和55年（1980）の大雪で根元より折れてしまいました。その巨木の跡地には記念碑が建てられています。

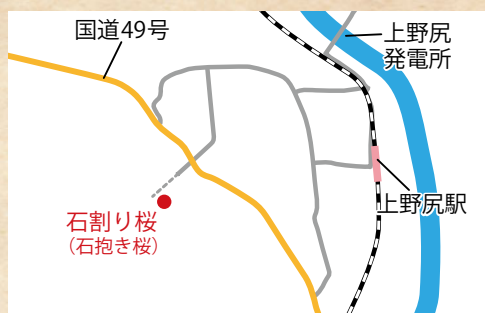
町の近代化の象徴といえる大正3年（1913）の磐越西線全線開通や、昭和31年（1956）から33年（1958）にかけて行われた上野尻発電所の建設工事などにより、町は大きく発展していきました。当時を懐かしむように「鉄路に沿った桜並木」が見事に咲き誇り、町一番の花見スポットとして多くの人々の目を楽しませています。



石割り桜（石抱き桜）



上野尻発電所周辺の桜



今月の表紙

今回は、こゆりこども園ひまわり組のおやつの時間にお邪魔しました。みんな、手洗いが上手でびっくり！しっかりと指先や指の間まで洗えていました。また遊びにいくね！



編集後記

6月といえば梅雨。雨の匂いって独特な匂いがしますよね。あれは、植物から発生した油が乾燥した土や石に付着して、それに雨が当たって舞い上がることで発生するそうです。ちなみに雨が降った後の匂いは、土の細菌が作り出す物質の匂いだそうです。ジメジメする梅雨は嫌いですが、僕にとっては誕生月でもあるので、前向きな気持ちでまた1カ月頑張っていこうと思います。（泰）